

調査全体の概要

- 調査の目的
義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 調査の対象 小学校第6学年・義務教育学校前期課程第6学年の全児童 中学校第3学年・義務教育学校後期課程第3学年の全生徒
- 調査内容 (1)教科に関する調査 国語 算数・数学
(2)質問調査 児童生徒に対する調査 学校に対する調査
- 調査方式 悉皆調査
- 調査日 令和6年4月18日(木)
- 調査を実施した学校・児童生徒数 小学校 283校 17,911人 (※小学校に義務教育学校前期課程1校を含む)
中学校 130校 14,458人 (※中学校に義務教育学校後期課程1校を含む)

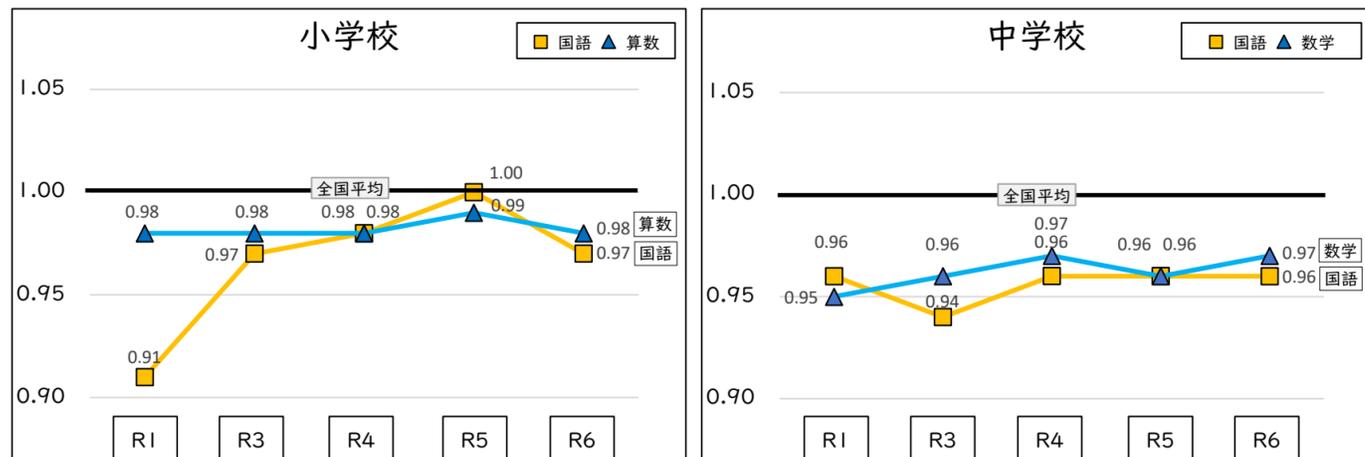
平均正答率と経年比較グラフ

○全国の平均正答率を1としたときの大阪市の割合を「対全国比」として表しています。
○令和2年度は、新型コロナウイルス感染症にかかる状況及び学校教育への影響等を考慮し、実施されていません。

	R1			R3			R4		
	大阪市	全国	対全国比	大阪市	全国	対全国比	大阪市	全国	対全国比
小学校 国語	58	63.8	<u>0.91</u>	63	64.7	<u>0.97</u>	64	65.6	<u>0.98</u>
小学校 算数	65	66.6	<u>0.98</u>	69	70.2	<u>0.98</u>	62	63.2	<u>0.98</u>
中学校 国語	70	72.8	<u>0.96</u>	61	64.6	<u>0.94</u>	66	69.0	<u>0.96</u>
中学校 数学	57	59.8	<u>0.95</u>	55	57.2	<u>0.96</u>	50	51.4	<u>0.97</u>

	R5			R6		
	大阪市	全国	対全国比	大阪市	全国	対全国比
小学校 国語	67	67.2	<u>1.00</u>	66	67.7	<u>0.97</u>
小学校 算数	62	62.5	<u>0.99</u>	62	63.4	<u>0.98</u>
中学校 国語	67	69.8	<u>0.96</u>	56	58.1	<u>0.96</u>
中学校 数学	49	51.0	<u>0.96</u>	51	52.5	<u>0.97</u>

【対全国比の経年比較】



学力向上の取組と本年度の教科に関する調査の結果概要

- 本市においてはこれまで、全小学校・中学校・義務教育学校を対象として、教育ブロック担当指導主事やスクールアドバイザーなどから構成される「支援チーム」が、担当校の実態やニーズに応じて支援を行う「学力向上支援チーム事業」や、各教育ブロック内の学校や地域等の実情に応じた支援を行う「ブロック化による学校支援事業」の実施などを通じて、各学校に応じたきめ細かな支援を行うとともに、教育委員会と学校が一体となった取組を継続して進めてきました。
- 今年度の平均正答率の対全国比について、昨年度と比較すると、小学校では国語・算数ともに下降しています。一方、中学校では数学においてやや改善しています。
- 今年度の学力層に着目した分析では、学力に課題のある児童生徒(区分Ⅳ)の割合について、昨年度と比較すると、小学校では国語・算数ともに全国との差が広がっています。一方、中学校では国語において改善しています。
- 経年的に分析をすると、全体的には改善傾向にありますが、依然として全国水準には達しておらず、さらなる学習指導の充実が必要です。「大阪市教育振興基本計画」において、基本的な方向として掲げる「誰一人取り残さない学力の向上」の実現に向けて、児童生徒一人一人の学力状況等を分析し、データ等の根拠に基づいたきめ細かくて継続した指導・支援を引き続き行います。さらなる学力向上に向けては、自分の個性や適性にあった可能性を追求し、「自ら学び考える力」を身に付けさせることを通じて、自分らしく未来を切り拓くことができる力の育成を図ります。

学力層に着目した児童生徒の割合

※全国の児童生徒全員の正答分布の状況から高い順に概ね25%になるように区分Ⅰ・区分Ⅱ・区分Ⅲ・区分Ⅳの4つに分け分析しました。なお、正答率が同じ場合は、上位の区分に含んでいます。
※大阪市と全国との差の値は、区分Ⅰ・区分Ⅱについては差が大きいほど、区分Ⅲ・区分Ⅳについては差が小さいほど、良好な結果を表しています。

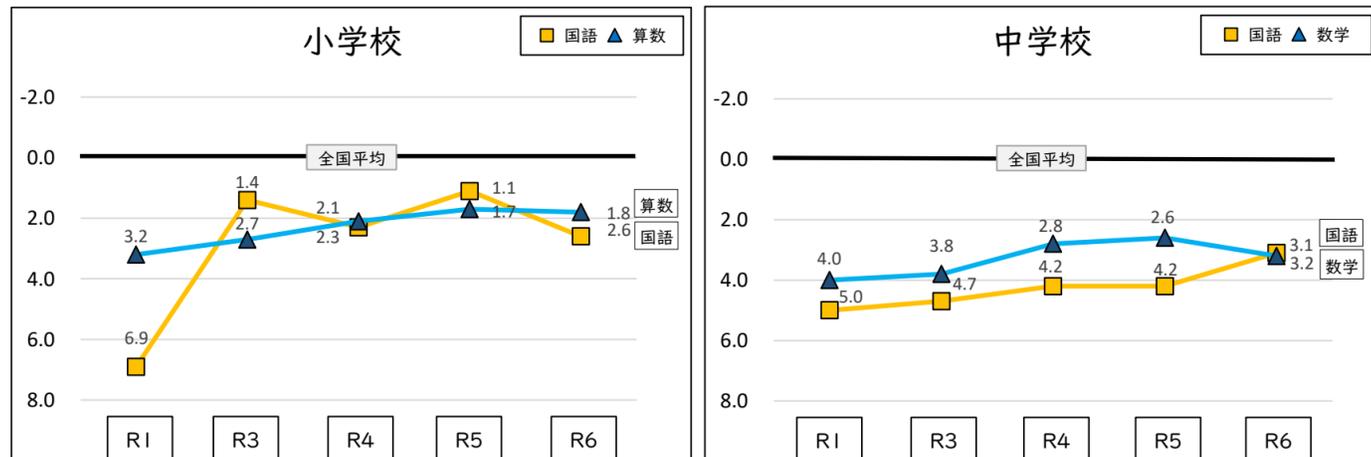
【小学校】

	国語						算数											
	R4			R5			R6			R4			R5			R6		
	大阪市	全国	全国との差															
区分Ⅰ	24.5	28.4	-3.9	26.6	27.1	-0.5	25.9	29.9	-4.0	28.4	30.2	-1.8	29.6	30.0	-0.4	31.9	33.8	-1.9
区分Ⅱ	24.7	24.5	0.2	27.3	28.1	-0.8	26.3	25.8	0.5	21.8	21.7	0.1	19.2	20.1	-0.9	17.9	18.5	-0.6
区分Ⅲ	27.6	26.2	1.4	21.0	20.8	0.2	20.6	19.7	0.9	24.0	24.3	-0.3	30.0	30.5	-0.5	28.4	27.7	0.7
区分Ⅳ	23.2	20.9	<u>2.3</u>	25.1	24.0	<u>1.1</u>	27.2	24.6	<u>2.6</u>	25.8	23.7	<u>2.1</u>	21.2	19.5	<u>1.7</u>	21.8	20.0	<u>1.8</u>

【中学校】

	国語						数学											
	R4			R5			R6			R4			R5			R6		
	大阪市	全国	全国との差															
区分Ⅰ	26.4	31.2	-4.8	30.1	33.4	-3.3	30.1	33.5	-3.4	28.6	30.5	-1.9	24.8	27.3	-2.5	25.9	27.3	-1.4
区分Ⅱ	26.8	28.4	-1.6	23.0	24.2	-1.2	21.0	21.2	-0.2	26.3	27.5	-1.2	22.5	24.0	-1.5	27.1	29.3	-2.2
区分Ⅲ	21.1	19.0	2.1	23.3	23.0	0.3	26.9	26.5	0.4	23.4	23.0	0.4	32.5	31.1	1.4	23.5	23.1	0.4
区分Ⅳ	25.6	21.4	<u>4.2</u>	23.6	19.4	<u>4.2</u>	22.0	18.9	<u>3.1</u>	21.8	19.0	<u>2.8</u>	20.2	17.6	<u>2.6</u>	23.5	20.3	<u>3.2</u>

【学力に課題の見られる児童生徒(区分Ⅳ)の割合における全国との差の経年比較】 ※大阪市と全国との差の値は、小さいほど良好な結果を表しています。



質問調査の結果概要

児童質問 生徒質問 学校質問

※大阪府教育振興基本計画では3つの「最重要目標」を掲げ、重点的に取り組むべき施策を推進するために、次の「9つの基本的な方向」を示しています。

児童生徒質問、学校質問の項目について、9つの基本的な方向における指標となる目標値を掲載しています。

最重要目標1	1 安全・安心な教育環境の実現	2 豊かな心の育成
重要目標2	3 幼児教育の推進と質の向上	4 誰一人取り残さない学力の向上
重要目標3	5 健やかな体の育成	6 教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進
	7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり	8 生涯学習の支援
	9 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進	

- 「学校に行くのは楽しいと思いますか」という質問に対して肯定的な回答をした児童生徒の割合は、昨年度と比較すると、中学校ではやや増加していますが、全国と比較すると小中学校ともに下回っています。
- 「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」という質問に対して「当てはまる」と回答した児童生徒の割合は、昨年度と比較すると、小中学校ともにやや減少していますが、全国と比較すると中学校では上回っています。
- 「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」という質問に対して肯定的に回答をした児童生徒の割合は、昨年度と比較すると、中学校ではやや増加しており全国と比較すると上回っています。
- 「自分には、よいところがあると思いますか」という質問に対して肯定的に回答をした児童生徒の割合は、昨年度と比較すると、小中学校ともにやや増加しており、小学校では全国平均に達しています。
- 「将来の夢や目標を持っている」という質問に対して肯定的に回答をした児童生徒の割合は、昨年度と比較すると、小学校ではやや増加していますが、全国と比較すると小中学校ともに下回っています。
- 「学級の友達(生徒)との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考えに気付いたり(広げたり)することができていますか」という質問に対して、「当てはまる」と回答した児童生徒の割合は、昨年度と比較すると、小中学校ともにやや増加していますが、全国と比較すると下回っています。
- 「全国学力・学習状況調査の結果を地方公共団体における独自の学力調査の結果と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行っていますか」という質問に対して、「よく行っている」と回答した学校は、小中学校ともにやや増加しており、全国と比較すると中学校では上回っています。
- 「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」という質問に対して「当てはまる」と回答した児童生徒の割合は、昨年度と比較すると、小中学校ともに増加しており、全国平均を上回っています。

◎ 児童生徒の挑戦心や自己有用感、幸福感等をさらに高め、「自ら学び考える力」を身に付け生き生きと学習活動に取り組むことができるように、今後も児童生徒一人一人の学力状況等を分析し、データ等の根拠に基づいたきめ細かな支援を進めていきます。

基本的な方向1 『学校に行くのは楽しいと思いますか』 令和7年度末目標値 肯定的回答の割合 小学校85.0% 中学校82.0%



基本的な方向1 『いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか』 令和7年度末目標値 「当てはまる」と回答した割合 小学校90.0% 中学校85.0%



基本的な方向2 『人の役に立つ人間になりたいと思いますか』 令和7年度末目標値 肯定的回答の割合 小学校96.0% 中学校95.0%



基本的な方向2 『自分には、よいところがあると思いますか』 令和7年度末目標値 肯定的回答の割合 小学校77.0% 中学校77.0%



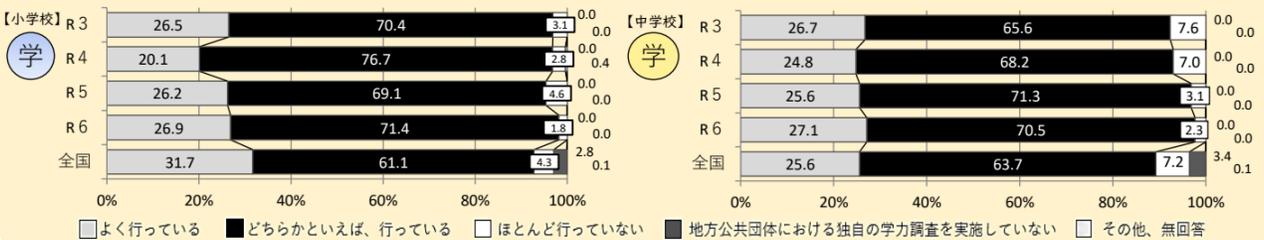
基本的な方向2 『将来の夢や目標を持っていますか』 令和7年度末目標値 肯定的回答の割合 小学校80.5% 中学校70.0%



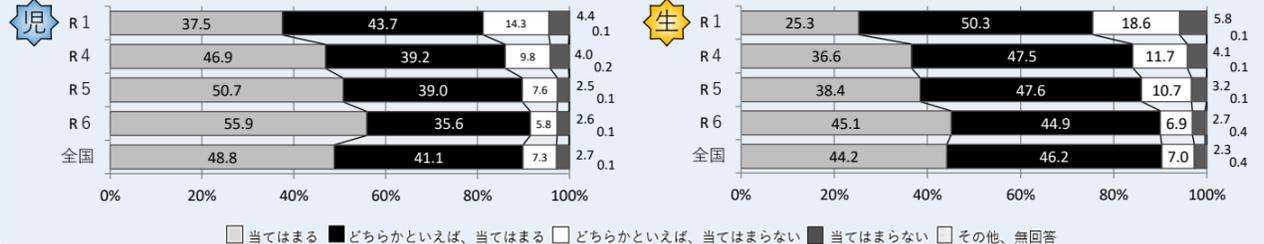
基本的な方向4 『学級の友達(生徒)との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたり(広げたり)することができていますか』 令和7年度末目標値 「当てはまる」と回答した割合 小学校35.0% 中学校35.0%



基本的な方向4 『全国学力・学習状況調査の結果を地方公共団体における独自の学力調査の結果と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映をどの程度行っていますか』 令和7年度末目標値 「よく行っている」と回答した割合 小学校50.0% 中学校50.0%

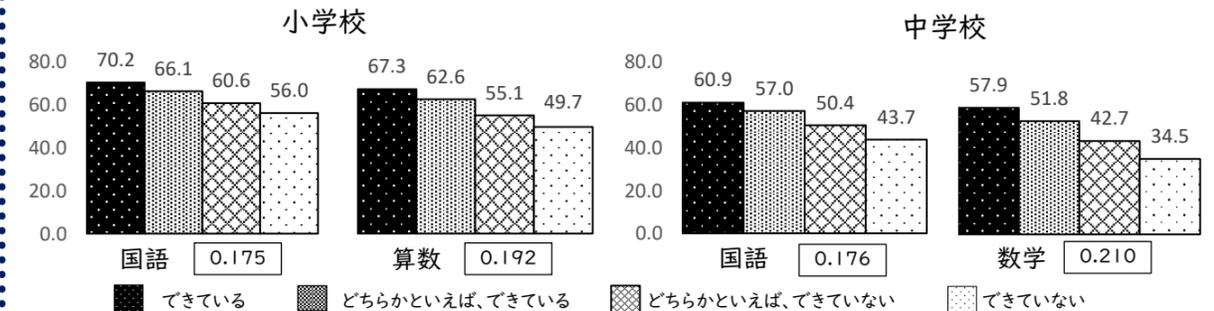


『先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか』 ※当該質問項目の調査があった直近4か年と比較しています。



教科の平均正答率と質問紙調査のクロス集計結果

『分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか』



「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか」の質問項目に対して、小中学校ともに肯定的に回答している児童生徒の方が、教科の平均正答率が高い傾向が見られます。